

高等教育における協同学習の実践的検討 (VIII)

—学びを深める質問のスキル—

益谷 真 (敬和学園大学)

キーワード：協同学習，質問スキル

目 的

大学生は質問されたら、自分なりに考えて応える事は、ある程度できるが、自ら質問するのは苦手である。話し合いを通じて課題に取り組む協同学習では、知らない情報を収集する質問モードから、集団思考のための質問モードへ、即ち様々な情報を精査し、課題解決のためにクリティカルに考えるために質問することが求められ、学習スキルとして効果的な質問のノウハウが協同学習の質を高める。また、社会人基礎力としても、効果的な質問のスキルが、チームで仕事を進めるための対話や、創発的なミーティングなどにおいて、欠かせないコミュニケーション・スキルになる。

そこで本報告では、大学生たちが話し合いを通じて学んでいくために、互いにどのように質問すればよいか（ノウハウ）に関する知識と、それらを用いて実際にどのような質問が作れるかを検討する。

方 法

対象者：地方の国立大学の1年次生 240 名を対象に、コミュニケーション・スキルをテーマにした協同学習を 15 回実施し、その第 10 回目に授業中の課題として、以下の設問について個別に自由記述させた。

設題：①どうすれば効果的な質問になるか？あなたが知っているコツをできるだけ多く報告しなさい。②今回の授業内容について効果的な質問をできるだけ多く作りなさい。

主な結果と考察

回答はフリーソフトの KH コーダーでテキスト分析した。単語単位の分析になるので、入力段階で表現を可能な限り統一させた。前処理で複合語を整理して、意味レベルでキーワードが特定できるようにした。

Table 1 に頻出上位の語句を意味が分かるように機能語を補って示す。質問の最中フェーズにコツが偏り、話し合いを深める展開フェーズが不足していることが分かる。事前の個人思考で質問を考える事も、効果的な質問を産み出す助けになる。

知っているコツを活かして実際に作った質問を外的基準にして多重対応分析したところ、作られた質問の個数に関して、その影響は認められなかったが、コツを多く知っていると、質問の文章が丁寧で詳細に述べられた。答えを求めるのではなく、相互に思考を展開させるには、展開フェーズのコツが有効であったことから、質問中心の対話（清宮, 2011）を協同学習に多く採り入れる事が、効果的なトレーニングになると思われる。

Table 1 フェーズ別にみた頻出上位の効果的な質問のコツ

事前	最中	展開
相手の知識を調べる。	相手の理解状況を覗う。	相手が興味を持てる事を訊く。
ある程度知識のある人に訊く。	具体的に訊く。	新たな発想が生まれるように訊く。
自分が曖昧な事を考える。	自分の考えを述べてから訊く。	相互に疑問点を出し合う。
自分で調べられる事は訊かない。	5W1Hを意識する。	多くの人が知りたい事を訊く。
目的を明確にしておく。	知りたい事を明確に述べる。	段階的に訊いていく。
質問の意図を明確にさせる。	分解して1度に1つだけ訊く。	要点が共有できるようにメモする。
要点を整理しておく。	文章や訊き方を簡潔にする。	
答えを予想しておく。	相手の目を見て訊く。	
話をよく聞いた上での絞る。	自分の予想とのギャップを意識する。	
	反応を見て訊き方を変える。	
	仮定表現や具体的例をあげて訊く。	
	敬意を持って攻撃的にならない。	
	クローズドとオープンを使い分ける。	
	複数ある時は幾つあるかを先に述べる。	
	自分が知識や理解を先に述べる。	
	相手が考えられる間を設ける。	